

## 倉馬の里だより

### 里山倶楽部大活躍

田圃の稲は順調に育っています。鴨の遊び場になって荒れていますが愛鳥精神でいこうと思います。

7月6日 倉馬桜の木の下休憩所にベンチを作りました。山田さんが下づくりした本格派です。

バーベキューハウスなどの机を作ってくれた渥美さんがまた本格派を作ってくれます。感謝



7月14日 そば脱穀完了、2kgの収

穫。そばは8月6日にバーベキューハウスで蕎麦打ちをする予定。その後は、袋井の花火見物の予定。お楽しみに！

7月23日 AB2班に別れ、田圃班は施肥、光陽の里では大豆の種まき約120坪に約2升を60cm畝巾、株間20cmで、2粒ずつ豆をまく。田圃班と別れての作業だったが、田圃班も合流し、総勢十名あまり、種まきの後は鳥対策として、寒冷紗と枯れ草をかぶせ、作業終了。発芽して本葉が出た頃寒冷紗を外して、土寄せし、収穫を待ちます。珍しく午前中で終了した。



みんなで植えたトマトが見事になっていきます。里山倶楽部会員は、自由にとつて下さい。料金は近くに料金箱を設置してあります。



松井道夫 記

### 柴桂子さん新刊出版

#### 江戸期に生きた

#### 女表現者たち

倉馬の里の名づけ親で、里長として

活動されていた柴桂子さんが昨年の大著「江戸期女表現者辞典」出版に続き、「NHKカルチャーラジ

オ 歴史再発見 江戸期に生きた女表現者たち」を出版された。柴さんは江戸期女性史の研究者で、二宮尊徳の娘「ふみ」を中心に尊徳の女性観を追及する過程で学園花の村の設立運動に出会い、持ち前のリーダーシップで故宮城正雄学園花の村代表と共に倉真と初馬の境に「倉馬の里」を開いた。今は京都大学で女性史の研究に没頭という理論と実践の両刀使いである。

新刊本は、2016年7～9月のNHKラジオ第2放送のテキストで、尊徳の娘「二宮ふみ」は江戸時代の文化を担った女性13名の中の一人として第2回目に登場、尊徳が男女の差別なくふみと兄弥太郎の教育にあたったことや、ふみの男と遜色なき活動ぶりが説かれている。女性も頑張っていた。江戸文化を担った女性の発掘に汗を流された柴さんに敬意を表します。

(定価…950円+税)

伊藤公博 記